

消防学校だより

令和8年7月号

発行年月日 令和8年8月1日
発行 宮崎県消防学校

救助科（農業機械事故対策）

7月1日（水）、JAみやざき及び県総合農業試験場から講師を招き、農業機械事故対策について学びました。農業機械事故は県内でも毎年発生しており、専門的知見が不可欠です。

訓練ではロータリーへの巻き込み事故を想定し、要救助者に負担をかけない救助手法を検討しました。しかし、使い慣れない機械の構造に苦戦し、救助活動の困難さを痛感しました。今後は農業機械の構造理解を深めるとともに、どんな特殊な現場環境においても迅速かつ安全に救助できるよう、技術研鑽に励んでまいります。

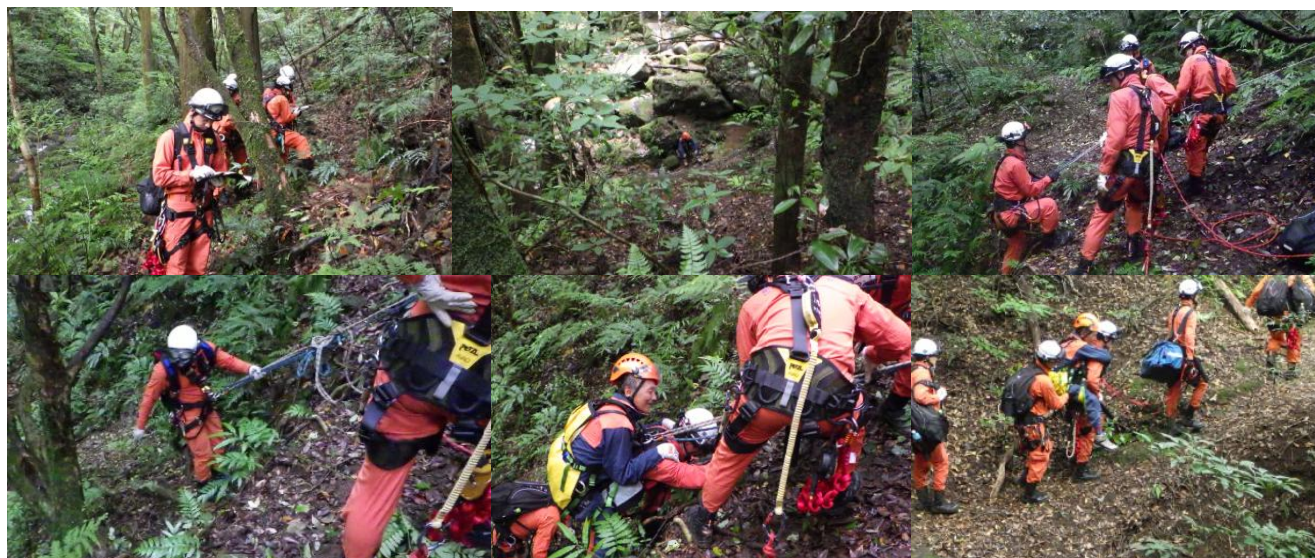


救助科（山岳救助訓練）

7月2日（木）、双石山にて山岳救助訓練を実施しました。訓練では地図やコンパスを用いた読図に挑みましたが、複雑な地形把握の難しさを痛感しました。

搜索活動では、部隊で連携し声を掛け合いながら進むことで、無事に要救助者を発見・救助することができました。猛暑の中での訓練となりましたが、互いの体調を気遣い、熱中症対策を徹底したことも大きな収穫となりました。

今回の訓練を通じ、確実な救助には正確な地図読解能力と、部隊間での密な連携が不可欠であると再認識しました。今後は、いかなる過酷な環境下でも迅速かつ的確に救助活動を展開できるよう、読図技術の向上と体力の強化を課題とし、更なる訓練に励んでまいります。



救助科 (Urban Search And Rescue 訓練)

7月3日(金)、宮崎市北消防署東分署にて、USARの基礎知識や個人装備、求められるスキルについて終日指導を受けました。講義では、活動の根幹となる「3S(迅速・確実・安全)」の重要性を説かれ、プロとして圧倒的な速度で任務を遂行する姿勢を学びました。

また、長時間の過酷な活動における隊員や傷病者のメンタル・体調管理の重要性を再認識しました。一方で、作業への没頭により傷病者への配慮や隊員の安全管理が疎かになるなど、視野の狭さを痛感する場面もありました。今回の教訓を胸に、活動全般を俯瞰する高い視座と、円滑な連携を図るためのコミュニケーション能力を磨き、次なる訓練へ精進します。



救助科 (海上保安庁の災害対策)

7月6日(月)、第十管区海上保安本部 鹿児島航空基地・宮崎海上保安部より講師を招き、海上保安庁の災害対策について講義を受けました。他機関の体制や活動を深く理解する貴重な機会となりました。

大規模災害時には関係機関による相互協力と柔軟な対応が不可欠です。地域と住民の命を守るという共通の目的を胸に、今後も強固な協力体制を維持し、有事の際に円滑な連携が図れるよう、交流と連携を深めてまいります。



救助科 (震災対応訓練)

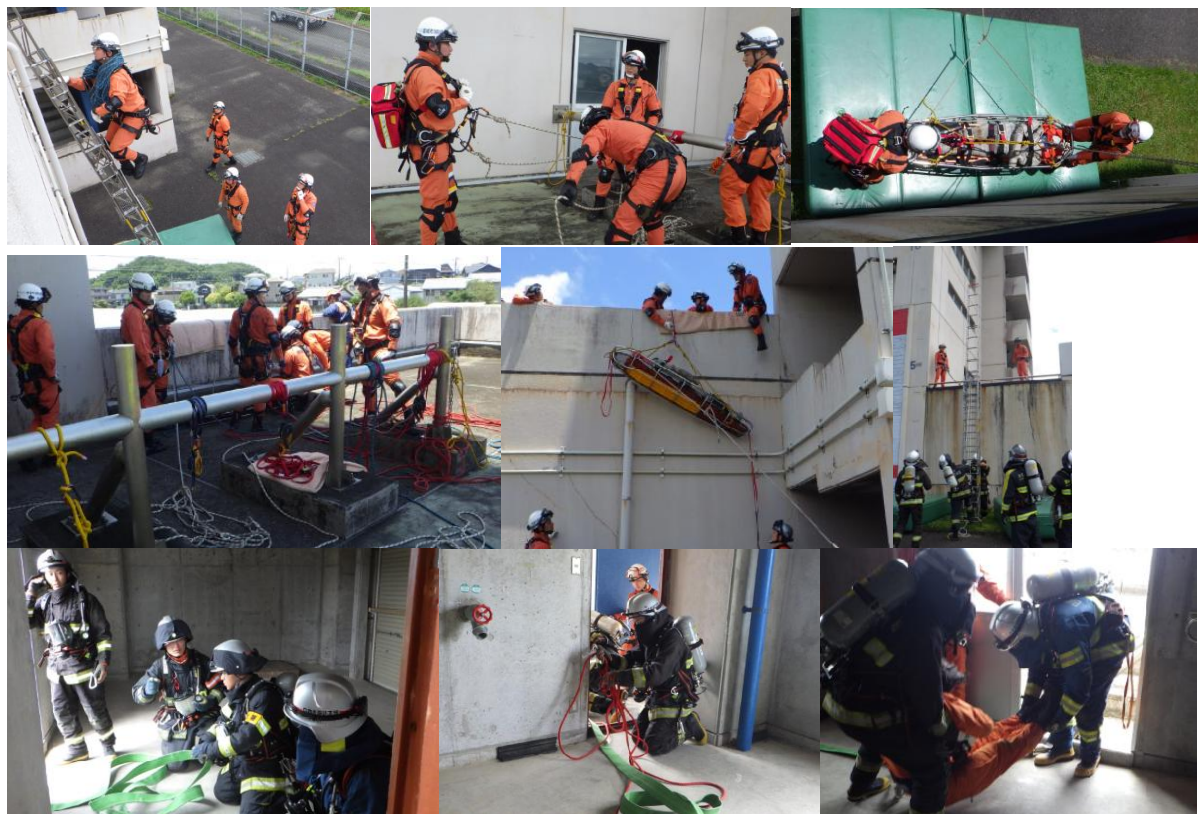
7月7日(火)、南海トラフ巨大地震の発生を想定した震災対応訓練を実施しました。発災直後の初動から救出完了までの一連の流れを通じ、倒壊家屋での人命検索技術を確認するとともに、長時間の過酷な活動がもたらす肉体的・精神的な疲労を身をもって体感しました。

本訓練の課題として、人員交代時の連携不足が浮き彫りとなりました。刻一刻と状況が変化する災害現場において、正確な申し送りは救助成功の鍵を握ります。今回の反省を踏まえ、今後は疲労困憊の状態であっても正確に情報を伝達する能力を養うとともに、部隊全体で情報を共有し、効率的かつ安全な活動を展開できるよう、実戦的な連携訓練を積み重ねていく決意です。



救助科（学生企画訓練）

7月9日（木）、救助科課程の訓練総括として、学生企画訓練を実施しました。訓練計画、安全管理、実施場所選定、想定付与及び振り返りの全てを学生主体で実施しました。



※第37期救助科は、7月10日（金）全てのカリキュラムを修了しました。

初任科（水上安全法）

7月6日（月）、日本赤十字社の講師を招き、水上安全法を学びました。訓練ではペットボトルや救命浮環を用いた救助法、および水上での救助技術を習得しました。

水難救助の鉄則である「可能な限り入水しない救助」の重要性を再認識し、身近な器材を活用した救出法を実践しました。また、自身の泳力を改めて確認する良い機会となりました。



初任科（視察研修）

7月14日（火）から16日（木）までの3日間で関東地方に視察研修に行き、羽田空港航空消防、消防博物館、横浜市消防局、東京消防庁第八消防方面本部消防救助機動部隊、及び東京消防庁消防学校安全推進室を視察しました。

各施設での研修を通じ、消防という職務が負う責任の重さと、現場における安全管理の重要性を深く胸に刻みました。最前線で活躍する組織の姿勢に触れたことで、消防吏員としての自身の進むべき道と新たな目標が明確になりました。今回の貴重な経験を糧に、残りの初任科期間では安全管理や資機材への愛護を徹底するとともに、仲間との絆をより一層深めることに注力します。



初任科（救急）

7月21日（火）、救急資機材の習熟に向けた取扱訓練を実施しました。今回は救急救命士や看護師資格を有する学生が講師役となり、ブース形式で諸元や操作方法を学びました。

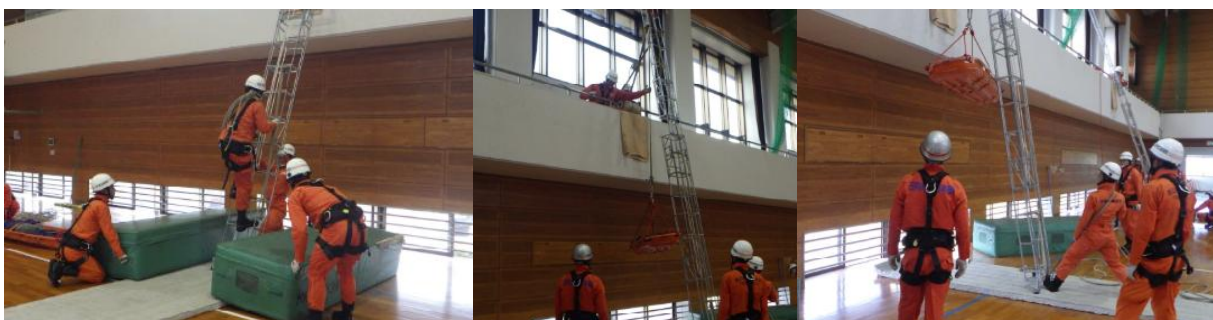
多種多様な資機材の適切な使用タイミングや注意点について、学生同士で知識を共有し理解を深めました。互いに教え合うことで専門的な知見が定着し、非常に有意義な訓練となりました。8月には実務研修を控え、さらに技術研鑽を重ねてどのような状況下でも適正な救急活動が行えるよう努めてまいります。



初任科（はしご水平救助操法二法）

7月22日（水）、三連はしごを用い、高所の要救助者を担架に乗せて水平状態のまま降下させる「はしご水平救助操法二法」の訓練を実施しました。

本操法は、これまで訓練した応急はしごよりも複雑な結索技術が求められます。習得してきたロープ技術を総動員し、要救助者の安全を最優先に確保しながら救助を行いました。技術の向上は救助の成功に直結します。今後はさらに結索の精度を高め、どんな状況でも迅速かつ確実な救助ができるよう邁進します。



初任科（火災防ぎょ訓練）

7月28日（火）、ホーストレーニングと検索救助操法を実施しました。ホーストレーニングでは多様な延長要領を反復し、操作の習熟度を一段と高めました。

また、検索救助操法では火災現場を想定し、防火衣と空気呼吸器をフル装備して活動しました。制限された視界や動きづらさの中、隊員間での密なコミュニケーションを徹底することで、的確な検索と救助を遂行しました。今後も過酷な環境下でこそ真価を発揮できるよう、技術と連携の強化に努めてまいります。



8月の主な行事

- | | |
|----------------|------------------|
| ●初任科生実務研修 | 8月3日（月）から8日（土）まで |
| ●第41回宮崎県消防操法大会 | 8月22日（土） |
| ●無線資格取得講習 | 8月27日（木） |

宮崎県消防学校

電話:0985-56-0555 FAX:0985-56-1475

E-mail:shoboh-s@pref.miyazaki.lg.jp